



東京商工会議所 会頭

三村 明夫

受賞をされた企業の皆さま、この度は誠におめでとうございます。高い理想を胸に抱き、未来を切り拓くために果敢に挑戦し、成果を創出している企業を称える「勇気ある経営大賞」は、今回で第17回目を迎えました。応募のあった118社の業種や業態は、さまざまでしたが、いずれの中小企業も理想を実現するためにあくなき挑戦を続ける企業ばかりでした。

今回は、1990年代後半に売り上げの7割を占めていた自動車分野から脱却すべく、お客様のものづくりを徹底して手伝うことで、航空機・医療の新たな分野へ参入を果たした東鋼が大賞に選ばれたほか、チタンなどの加工が難しい素材でも「挑戦する前からあきらめない」を掲げ、金属極細パイプの分野で「駆け込み寺」の評価を得て、業績を伸ばした華光と実父である先代社長の死に際し、「どうやったら生き残れるのか」を模索し、自社ブランドの製品を開発するとともに、中国での製造拠点の確立と北米への販路開拓に取り組まれた東京彫刻工業が優秀賞に選ばれました。極めてユニークでキラリと光る企業に贈る特別賞には、100年振りに港区芝に酒蔵を復活し事業化を成功させた若松が選ばれるなど、まさに勇気ある挑戦が課題を解決し、さらなる成長につながることを、身をもって実証された企業ばかりです。

日本は今、国内では少子高齢化の進展、人手

不足、潜在成長率の低下、国際的には米中対立などによる世界経済全体の不確実性の高まりなど、様々な課題に直面しています。昨年、明治維新150年の節目の年を迎えましたが、明治の人々のおかれた環境は、今の我々よりもはるかに厳しかったはずで

です。そのような中、東京商工会議所の創設者である渋沢栄一をはじめとする我々の先人たちは、日本に必要な制度、技術、産業などを一つ一つ創りあげ、近代国家を建設していきました。

現代に生きる我々も目の前にある難局に対し、あきらめず挑戦し未来を切り拓いていくことが、日本経済の発展に欠かすことができません。また、そうした挑戦を続けていくことこそが、明治の先人たちの「意志をつなぐ」ことにもなるはずで

す。これからも、日本経済を支える中小企業の勇気ある挑戦を期待しています。

今回、惜しくも選考に漏れてしまった企業もありましたが、ぜひ次回も“勇気ある挑戦”に取り組まれている多くの企業の皆さまからのご応募を心よりお待ちしております。

末筆となりましたが、受賞された企業各社の今後一層のご活躍をご期待申し上げるとともに、本賞の実施にあたり、ご推薦をいただきました関係各機関、ならびに選考に携わっていただいた関係各位に、心より厚く御礼申し上げます。